

2022年度

自己点検・評価報告書

2023年3月

学校法人 文理学園

日本文理大学医療専門学校

診療放射線学科

目次

I	学校の現況	1
II	評価の基本方針	2
III	重点目標	2
IV	評価項目の達成及び取組状況	3
	1. 教育理念・教育目標	3
	2. 学校運営	4
	3. 教育活動	5
	4. 学修成果	6
	5. 学生支援	7
	6. 教育環境	8
	7. 財務	9
	8. 法令等の遵守	10
	9. 社会貢献・地域貢献	11
V	総合評価	12

I 学校の現況

(1) 施設の概要

学校名: 学校法人 文理学園 日本文理大学医療専門学校

所在地: 大分県大分市一木1727

施設長: 校長 豊住 昭和

(2) 沿革

1995年(平成7年)NBUメディカルカレッジ 診療放射線学科設置

2004年(平成16年)日本文理大学医療専門学校に改称

2005年(平成17年)臨床検査学科 臨床工学科設置

(3) 学科の構成

課程名	学科名	修業年限	入学定員	総定員	昼夜別
医療専門課程	診療放射線学科	3年	80名	240名	昼間
	臨床検査学科	3年	40名	120名	昼間
	臨床工学科	3年	40名	120名	昼間

(4) 学生数

学科名	1学年	2学年	3学年	全学年
診療放射線学科	78	91	83	252
臨床検査学科	29	39	26	94
臨床工学科	19	21	10	50

(5) 教職員数

	専任	非常勤
診療放射線学科	10	10
臨床検査学科	6	11
臨床工学科	7	15
職員数	23	36

II 評価の基本方針

- (1) 自己点検・評価を行うことにより教育研究活動の現状を把握し、諸機能を活性化させ、その教育水準の維持向上に努めることを目的とする。
- (2) 自己点検・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施するものとする。
- (3) 判定基準
 - 4…適切 適切にされており、特に解決すべき課題はない
 - 3…ほぼ適切 現時点で早急に解決すべき課題はないが、状況把握が必要
 - 2…やや不適切 状況把握を行い、解決に向けた取組みが必要
 - 1…不適切 早急に解決すべき課題である

III 重点目標

1. 学校の教育理念と目標

- (1) 幅広い教養、奉仕の心、生命の尊厳の認識を持った人間的資質を磨き、社会が医療人に求めているものを的確に把握し対応できる能力を習得させる。
- (2) 医療従事者として、明確な目標を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続的に実施できるような自分を律する人間を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 国家試験合格率100%を目指した教育の実践
- (2) 学生の就職活動の早期化および、施設の開拓

3. 学科の目標

- (1) 学年ごとに目標を据えることで学習意欲の向上を図り、留年や退学をする学生数を減らす。
- (2) 学生の到達度に合わせた国家試験対策を実施することで診療放射線技師や放射線取扱主任者資格およびITパスポートの合格率を高める。

IV 評価項目の達成及び取組状況

1. 教育理念・教育目標

評価項目		評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4…適切
2	学校における職業教育の特色を打ち出しているか	4…適切
3	関連業界のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3…ほぼ適切
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3…ほぼ適切
5	学科の教育目標、育成人材像は、関連業界のニーズに向けて方向づけられているか	3…ほぼ適切

① 課題
4 理念などについて、学生や保護者に対する周知がやや不十分であると感じられる。
② 今後の改善方策
4 ホームページでは明記されているが、学外においても周知できるような活動をおこなう。
③ 特記事項
ホームページに掲載されているため、関係者には認知されやすいと告げられた。

2. 学校運営

評価項目		評価
1	目的等に沿った運営方針が定められているか	4…適切
2	運営方針に沿った事業計画が定められているか	4…適切
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されており、有効に機能しているか	4…適切
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3…ほぼ適切
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3…ほぼ適切
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3…ほぼ適切
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4…適切
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3…ほぼ適切

① 課題
7 情報公開が限定的になっている。 8 校務システムへの有効利用と人的ミスの可能性の洗い出し。
② 今後の改善方策
7 ホームページに情報公開されているが、広く周知させる方法を考える。 8 業務効率に対してのブラッシュアップを実施する。
③ 特記事項
成績や出席等の情報を校務システムで一元管理されている。しかし端末が限定されているため、入力の見落としなどの人的ミスもみられる。

3. 教育活動

評価項目		評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が定められているか	4…適切
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3…ほぼ適切
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4…適切
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3…ほぼ適切
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3…ほぼ適切
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3…ほぼ適切
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4…適切
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4…適切
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3…ほぼ適切
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3…ほぼ適切
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3…ほぼ適切
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3…ほぼ適切
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3…ほぼ適切
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3…ほぼ適切

① 課題
10 カリキュラムについて、必要単位数の増加に伴い以前のカリキュラムよりも学生負担は増してきている。 13 教員のスキルアップに対するバックアップが乏しい。
② 今後の改善方策
10 科目内での指導内容の精査、科目間での指導内容の連携を図り、学生が多くの知識・技能をより効率的に習得できる環境整備に努める。 13 積極的に研修へ参加するため日程の確保ができる体制を整える。
③ 特記事項
湯布院の勉強合宿が中止となった。学内にて実施したが、学生同士の協調性や協同性を十分に育むまでには至らなかった。今後は環境の変化も必要であると考え、実施する方向ですすめていく。

4. 学修成果

評価項目		評価
1	就職率の向上が図られているか	3…ほぼ適切
2	資格取得率の向上が図られているか	4…適切
3	退学率の低減が図られているか	3…ほぼ適切
4	進級率の向上(留年率の低減)が図られているか	3…ほぼ適切
5	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3…ほぼ適切
6	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3…ほぼ適切

① 課題
<p>1 求人数の減少により、就職率の低下が懸念される。</p> <p>2 放射線取扱主任者試験やITパスポートの資格取得について1年生、2年生に実施したが、合格率が低い結果になっていると感じられる。</p> <p>2,4 17ゼミの実施など、進級率の向上及び資格取得率の向上を図っているが目標である進級率100%、資格取得率100%には到達していない。</p>
② 今後の改善方策
<p>1 病院訪問等による求人数の増加を図る。</p> <p>2 資格取得の意義や重要性、成功体験に結び付けるための意識向上についての周知を図る。</p> <p>4 これまでに行ってきた取組に関してその成果を数値として解析、評価しより良い取り組みとなるように改訂を重ねていく。</p>
③ 特記事項
なし

5. 学生支援

評価項目		評価
1	進路(就職・進学)に関する支援体制は整備されているか	4…適切
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3…ほぼ適切
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3…ほぼ適切
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3…ほぼ適切
7	保護者と適切に連携しているか	4…適切
8	卒業生への支援体制はあるか	3…ほぼ適切
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3…ほぼ適切
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3…ほぼ適切

① 課題
<p>1 就職活動の激化に伴い、就職活動期間が長期化する学生や国家試験後に就職活動を行う学生が複数名存在している。</p> <p>8 新型コロナウイルス感染症による校友会の外部活動の休止により、各地での卒業生への支援が実施されていない。</p> <p>9 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備では施設設備の老朽化が感じられる。</p>
② 今後の改善方策
<p>1 学力向上に向けて国家試験対策などに努めることで、早期に病院見学や施設ごとの就職説明会の斡旋により、就職意識の向上を図る。</p> <p>8 校友会の外部活動を再開する。</p> <p>9 老朽化が著しい設備に対しては更新することを検討する。</p>
③ 特記事項
<p>新型コロナウイルス対策として、健康管理表、消毒薬を完備して、感染防止に務めた。</p>

6. 教育環境

評価項目		評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3…ほぼ適切
2	IT教育・遠隔授業等の学習環境が整備されているか。	4…適切
3	学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	3…ほぼ適切
4	感染症に対する危機管理体制が整えられているか。	3…ほぼ適切
5	防災に対する体制は整備されているか	4…適切

① 課題
1 施設・設備の老朽化(机、椅子の劣化)が見られる。面談や面接指導を実施する教室や予備室が少ない。
② 今後の改善方策
1 施設・設備の修繕を実施し、空き教室の有効活用を図る。
③ 特記事項
新型コロナウイルス感染症の影響により学外実習の停止を余儀なくされた施設もあったが、柔軟な対応により、全ての学生において終了させることができた。

7. 財務

評価項目		評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3…ほぼ適切
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3…ほぼ適切
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4…適切
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4…適切

① 課題	
1 学生数の逡減に対する対応策が必要である。	
② 今後の改善方策	
1 学生数の確保を図り、継続して中長期的な財務基盤の安定に努めていく。	
③ 特記事項	
2 予算の編成及び執行は毎年適正に実施している。 3 会計監査は、公認会計士及び監事により適正に行われている。 4 学園の財務情報を毎年ホームページに公開している。	

8. 法令等の遵守

評価項目		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4…適切
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4…適切
3	自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか	3…ほぼ適切
4	自己点検・評価結果を公表しているか	4…適切

① 課題
3 問題点に対して改善された項目もあるがまだ完全ではない。
② 今後の改善方策
3 計画的に実施することで、洗い出された問題点を改善していく。
③ 特記事項
本学園(文理学園)のプライバシーポリシーにより個人情報保護規定がなされている。 自己点検結果を毎年サイト上で公開している。

9. 社会貢献・地域貢献

評価項目		評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4…適切
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4…適切
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3…ほぼ適切

① 課題
2 学生のボランティア活動がコロナウイルス感染症の拡大により限局されている。 3 公開講座を行うことに対する明確な予定が組まれていない。
② 今後の改善方策
2 幅広い分野でのボランティア活動の斡旋を提供する。 3 職能団体との連携により近隣の住民に対する公開講座を開いていく。
③ 特記事項
日本赤十字社の献血推進協議会のボランティア活動に参加している。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【学校評価の具体的な目標】

医療人の基本である、生命の尊厳、奉仕の心、広い教養の認識を持った人間的資質を磨くことで、社会が本校に求めているものを把握し、十分に対応できる能力を習得させる。

また、生涯にわたり自己研鑽を継続的に実施できるような人間を育成することを目標とする。

上記を達成するために、学生の資質向上だけでなく、施設・設備の改善や教職員の自己研鑽を図る。

【総合的な評価】

学生の満足度としては授業アンケートなどより比較的高い評価を得ているが、教育環境や先端医療の取り組みへの対応について改善を図る必要性を感じる。また新型コロナウイルス感染症の影響が続くも、全国的にも緩和の一途がみられることから、課外学習やゼミを通して、学力の向上を図った。3学年においては9月の勉強合宿は実施できなかったが、代替のイベントを用意し協同学習に努めた。次年度は目標達成に向け、適切にPDCAサイクルを機能させることで、課題解決に向けて努めていくことが重要となってくる。